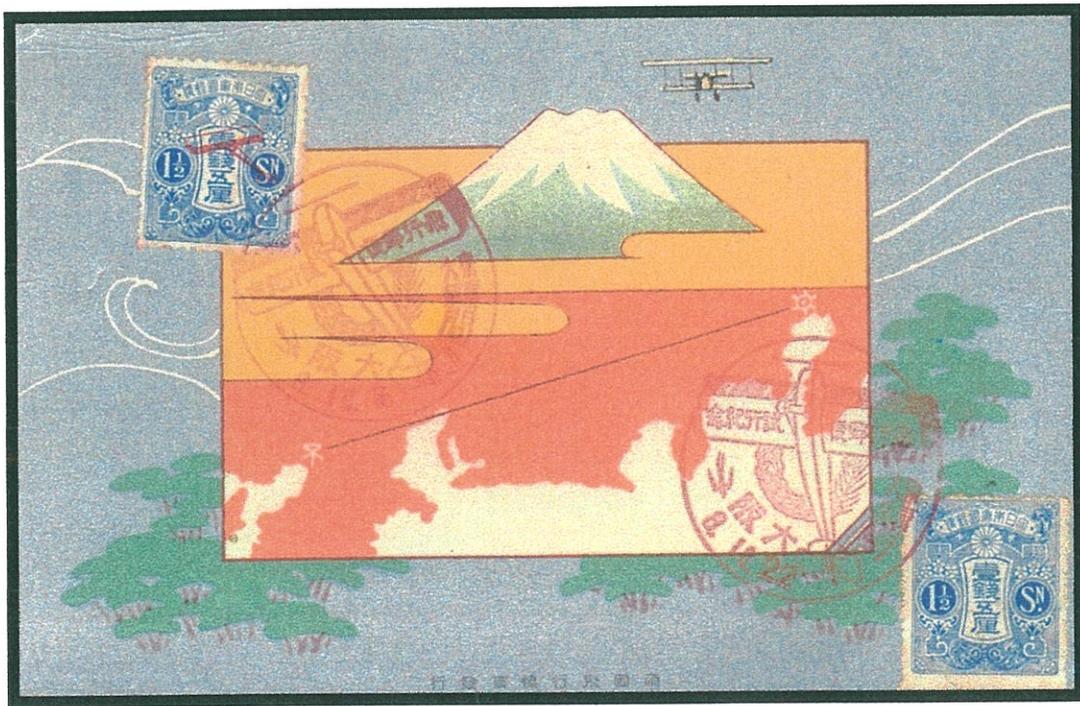


戦前の記念絵はがき「飛行郵便試験」マキシмумカード 蜂谷紀之

わが国初めての航空郵便は1919年(大正8年)10月、帝国飛行協会による東京—大阪間の「飛行郵便試験」でした。通信省はこの試験飛行に郵便物を委託し、これを記念して、田沢1½銭と3銭(旧大正毛紙)切手に石版で複葉機図案を加刷した切手を10月3日から3日間、東京と大阪市内の37局限定で発売しました。この切手は、10月31日までの国内郵便に限り使用できました。

当初の計画では、10月4日に東京から大阪、5日に大阪から東京への飛行が予定されていましたが、4日は雨天のため飛行は中止され、翌日も天候は回復せず、試験飛行は延期されました。引き受けていた郵便物は「事故飛行中止」印を押して鉄道便で輸送されました。その後、あらためて試験飛行が実施されたのは、10月22日(往路)～23日(復路)で、このとき運ばれた郵便物は、前者東京発が5,887通、後大阪発は2機で3,306通でした。

帝国飛行協会は記念切手の発行に合わせて三枚組の記念絵葉書を郵便局で販売しました。下図はこのうちの1枚「富士山と東京—大阪を結ぶ地図」に、「飛行郵便試験」1½銭加刷切手と、台切手



飛行郵便試験記念の加刷切手と同台切手を記念絵葉書に貼り特印を押したマキシмумカード

1½ 銭切手を貼付して、特印を押捺したマキシマムカードです。

特印の図案は切手に加刷された複葉機で、試験飛行延期の影響もあり、東京市内の切手発売 24 局では 10 月 10 月 4 日～6 日、20～23 日、同大阪市内 13 局では 10 月 4 日～6 日、20～26 日に使用されました。

絵葉書三箇所を押捺された大阪局の特印はそれぞれ日付が異なり、加刷記念切手には当初飛行日程最終日の 6 日(前頁図)、加刷のない台切手には延期後に東京を飛び立った 22 日(同)、裏面の押捺(右図)はその復路で大阪を飛び立った 23 日になっています。

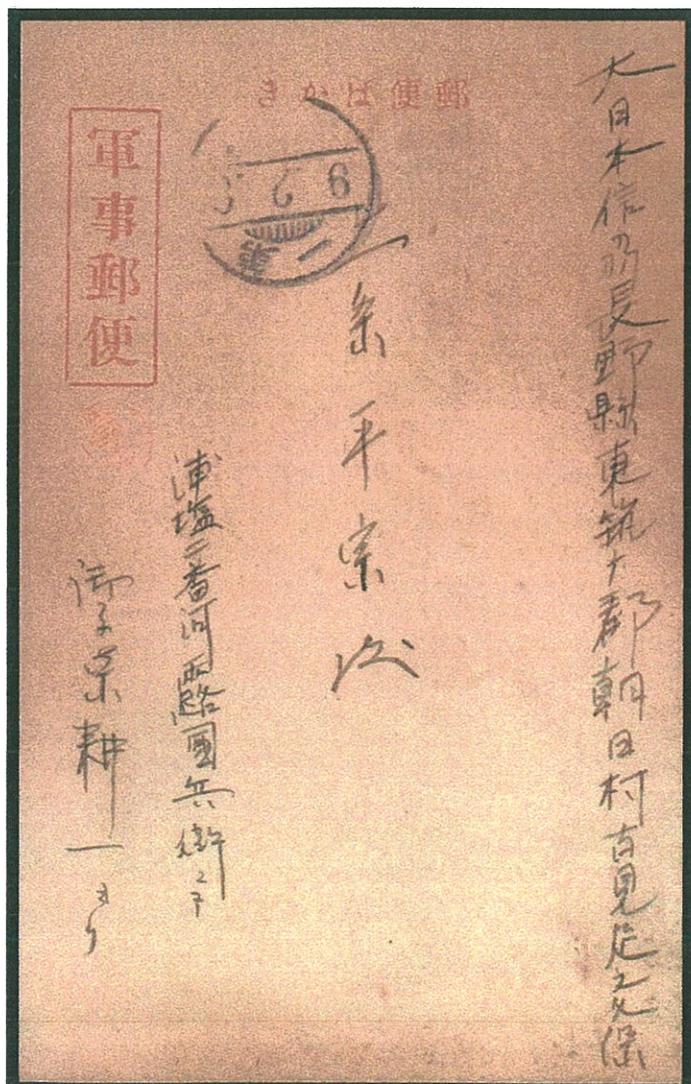


特印(宛名面)

なお、航空郵便制度が始まるのはこの 10 年後の 1929 年で、芦ノ湖航空切手が発行されました。

軍事郵便と軍事切手

蜂谷紀之



戦争で海外に派遣された軍人軍属から本国に宛てた郵便物は「軍事郵便」として、無料扱いでした。

左は、第一次世界大戦終結後の 1920(大正9)年、シベリアに出兵していた日本軍兵士の葉書です。

ロシアでは、第一次世界大戦末期、革命によってソヴィエト政権が成立すると、ドイツと単独講和して連合国を離脱しました。これに衝撃を受けたイギリス、フランス、アメリカなどは、ロシア軍の捕虜になったチェコ軍救援を口実に、1918 年から 20 年にかけてシベリアに出兵し、革命に干渉しました。

北満州からシベリアで勢力拡大を狙う日本もこれに加わりました。陸軍などの意向を反映して最大規模の派兵を行った日本でしたが、大きな損失を被って事実上敗退し、1922(大正11)年に撤兵しました。

1920(大正9)年2月9日
ウラジオストク(浦塩)発、長野県宛
軍事郵便葉書

「軍事」切手カバー

蜂谷紀之

中国大陸・朝鮮半島に派遣された日本の軍隊には当初、無料の軍事郵便制度が適用されていた。日露戦争(1904-05)後には日本軍の大陸派遣が本格化し、1910(明治43)年に新たな制度が作られた。下士官と兵卒には、軍から軍事加刷切手が配布され、月に2回まで無料で郵便が差し出せることになった。

これは1910年に発行された最初の軍事切手:軍事加刷菊切手の使用例で、在中国局で使用されたものとみられる。なお、本切手の使用期間は在中国局では1911年から15(大正4)年、1910年から使用した朝鮮局では14(大正3)年まで、同じく満州局は15年までである。

切手:軍事切手 菊3銭 加刷I型

1910(明治43).12.1 発行

消印:1912(明治45).5.13.3-6 PM

欧文楕形 DE 欄時刻入、在中国局で使用された様式だが局名欄空白

IJPO (Imperial Japan Post Office)

宛先:東京神田

封筒裏面は欠落

「処理済」朱印 等

(参考)1906年:南満州鉄道(株)設立・陸軍守備隊の派遣、1910年8月:韓国併合、1919年:守備隊を天皇直轄の関東軍に、1928年:張作霖爆殺事件、1931年:柳条湖事件・満州事変

